



平成30年12月20日

園長通信 第93号

「育ちの課題」

園長 安達 譲

yuzuru@hijiri.ed.jp

災いが転じて・・・

早いもので今年も残すところ10日ほどとなりました。先日、今年の1年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」に、西日本豪雨や北海道地震などの自然災害で多くの人が被災したことから、災害の「災」の文字が選ばれました。園でも避難訓練等により天災への備えと共に様々な怪我の状況を共有して常に備えを万全にしたいと思います。

一方、日本には「災い転じて福となす」という言葉がありますが、子ども達を観ていると一見失敗やマイナスに見えることが子どもの成長につながっているということが良くあります。例えば、5歳児のあるクラスがお店屋さんプロジェクトでレストランをしている。ある子は何人かのお客さんからたくさん注文を聴きすぎて、何をどこにもっていくか分からなくなってしまう。→そこでみんなで話し合っ「机に番号をふる」、「たくさん運ぶ時はお盆を使う」など、たくさんのアイデアが出され、解決していきます。失敗やうまくいかないこと（課題）が子ども達に考える機会を与え、成長させて（課題解決能力を育て）くれます。幼児教育の世界では年長の担任は「時には壁になることが大切」と言われていますが、それはこのように壁（課題）が成長にとってとても大切だからです。18世紀の哲学者ルソーは「子供を不幸にする最も手っ取り早い方法は何か知っているだろうか。それは、いつでも何でも手に入れられるようにしてやることだ。」という言葉を残していますが、子どものために良かれと思って何でもしてあげることや例えばもう誕生日を迎えて5歳になっているのに何でも望んだとおりにたり、本人の困ったことを何でもママが解決してしまっ子ども成長の邪魔をしてしまうということだと思ひます。

毎年、秋の美しい紅葉と年長組の子ども達が育った姿が重なって見えて、「もう小学校行っても大丈夫！」と嬉しくて少し寂しい気持ちになりますが、ここまで育つまでに年長の子ども達はいくつかの大切な育ちの課題をクリアしています。人生の第一歩は赤ちゃんの頃にお母さんやお父さんなどを通して「人を信じることと自分を信じることを学びます。」

次に2歳から4歳頃まで（幼児期）に自分の感情や衝動をコントロールすることを学んでいきます。保護者の皆さんが一番子育てで大変だった時期だと思ひますし、年少さんの保護者の方々は今も子どもの気持ちを受け止めながらも「それはやめとこうか」「ご飯の前には手を洗おうか」など、繰り返し繰り返し根気よく1つずつ子どもの気持ちに寄り添いながら、そして、子どものプライドを傷つけないように育ててこられていると思ひます。（年中の後半になっても好きなことしかしないとか好きなものしか食べないとしたら寄り添い過ぎとか言いなりになっているかもしれませんね。望んだとおりのことをしてあげるのが大切なのは2歳頃までですから。）

そして、4歳から7歳頃（児童期）に自主性（主体性）が育つことがとても大切で、友達と話し合ひながら自分たちで生活や遊びを創ることの出来る、今の年長さんのような姿が見られてきます。

色々災害が多い1年でしたが、年長の保護者の皆さん方は（もちろんみなさん心配なことがありだと思ひますが）今の我が子の成長を喜び、そしてその喜びを子ども達に伝えていただけたらと思ひます。年中、年少の保護者のみなさんはまだまだ心配なことだらけかもしれませんが、我が子の年長の姿を楽しみにしていただけたらと思ひます。

どうぞご家族で良い年をお迎えください。